

論壇

Argument



● 野崎 岳央

Civic Pride～まちという視点～

「顔の見える関係は無理」第1回医療連携検討会議での、あるベテランケアマネージャーからの発言でした。その時、私どもは幾つもの見えない高い壁があることを全く認識していなかったのです。その後、第2回、3回と会議を重ねることでやっと見えてきた事実、己の無知さと愚かさを痛感し、連携の困難さを思い知らされました。

これまでも、いわゆるシステムの構築は大なり小なり行われてきたことです。そして講演会、ワークショップを主とした研修会が永遠と行われてきました。しかし、そのシステムが生かされない。努力を何年も重ねた結果が「顔の見える関係は無理」と言わしめたのです。

ここに、私がキーワードと考えている言葉があります。Civic Pride（市民が都市に対してもつ自負と愛着）、まちづくりの基本的概念のひとつとして広まりつつあります。地域に対する「誇り」、「愛着」を創造し、具現化することで住み良いまちにするという運動と理解しています。岩見沢市には、2009年度グッドデザイン大賞受賞の駅があり、その駅は市民の寄付によって作られた4777個の刻印レンガによって外壁が造られているのです。それだけで十分市民の「誇り」となってよいと思うのですが、市民への意識の浸透はそれほど深いとは言えません。他にバラ園、野外音楽堂「キタオン」など、北海道を代表する市民の誇れる施設があります。しかし、となるのが現状です。

そしてもうひとつはワールド・カフェです。カフェはもともとコーヒーの意味ですが、転じて談笑のできる、情報交換のできる場所を指すようになりました。「知識や知恵は、機能的な会議の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し合いの手法がワールド・カフェです。まちづくりカフェが日本全国にでき、NPOが中心となって活動し、まちの活性化に取り組んでいます。そこでは、地域を愛する強い思いが原動力となっています。さらに2012年、旭川発のケア・カフェが全国各地で急速に広まり、大きな成果を上げているとの情報を聞いています。Civic Prideの概念をカフェという手法を用いて展開することが地域活性化を大きく前進させる、その構成要素の一つに医療連携も加えて頂くよう働きかけてゆくことで、新たな道を拓くような気がしています。

今日のネット社会においても、社会を推し進める最良の手段は、生身の人と人が直接会って話をする事です。

平成26年度南空知圏域医療連携推進事業は、「顔の見える関係」がスタートであることを再認識し、平成25年度事業で得た知識を実践すべく事業を進めてまいります。市民の安心と住み良いまちづくりへの貢献、そしていつしかまちの誇りのひとつとなることを目標として。

さては論壇、自由な発想、闊達な意見が社会を変える。皆様、どうぞご登壇あれ。